HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第一部　通史.　第四編　キャンパスの変遷
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 249-250
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28162
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_249.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第四編　キャンパスの変遷

札幌キャンパスは、開拓使が東京に設置した仮学校が移転して、一八七五年に札幌学校（札幌農学校の前身）として札幌市街中心部である現在の北一～二条西一～二丁目に開校したことに始まる（北一条キャンパス）。札幌農学校は一九〇三年から順次、北八条西五丁目を中心とした北八条キャンパスに移転し、その後、キャンパスは北方向へ展開して現在に至っている。北八条キャンパスの敷地も移転前には札幌農学校の農場であったため、現キャンパス内に農学校創立当初の農場施設が現存しており（第二農場）、また、その後の各時期の建物も保存・活用されているものが少なくない。このように、札幌キャンパスは全く無縁の地への全面的な移転という経験がなく、キャンパス自体が北海道大学一二五年の歴史を垣間見ることのできる生きた史料と言うことができる。

また、函館キャンパス（函館市港町）も、一九三五年に北海道帝国大学附属水産専門部が独立して函館高等水産学校となってキャンパス形成を始めてから、現在の水産科学研究科・水産学部に至るまで七〇年近い歴史を有している。

札幌・函館両キャンパスに現存する建物に、既に失われてしまった建物を合わせてキャンパスの変遷をたどることは、組織の変遷や沿革などとは全く異なる角度から北海道大学の歴史を確認する格好の材料となり得ると考えられる。第四編ではそうした視点に基づき、札幌・函館両キャンパスの特徴や様子を適宜に時期区分して、建物の変遷を中心に記述した。また札幌キャンパスに関しては、地形や遺跡の考察からその自然や環境などの特質についても記述した。

なお、『写真集北大125年』では、キャンパス配置図と写真・図面と年表によって建物を中心に北海道大学の変遷を著している。合わせて参照すればより理解を深めることができる。